

通信

NO. 9
平成25年10月号

ビジネス総研株式会社
福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
☎092-409-4177

官兵衛 参上!

(福岡黒田武将隊)



福岡藩祖、黒田官兵衛孝高(よしたか)が主人公。豊臣秀吉に天下を取らせた名軍師ぶりが、どのように描かれるかと大きな話題となっているなかで、絵画サークルであるチャーチル会全国大会が開催された。

このチャーチル会全国大会の室内の人物スケッチ会場に、福岡黒田武将隊の黒田官兵衛殿にお出まし頂き、絶好のモデルとなっていた。

福岡黒田武将隊は、平成26年

のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛(かんべえ)」が放送されることを機に結成され、様々なイベントに神出鬼没で、その盛り上げに一役買っている。



チャーチル会とは、戦後すぐに発足した絵画の愛好家の会で、全国に46の会があり、毎年、持ち回りの全国大会を開催し、開催地のスケッチや屋内での人物スケッチを楽しんでいる。

今年は、チャーチル会博多がホスト役で、10月12日13日の両日、福岡市のヒルトン福岡シーホークホテルを主会場に、全国から220人を超える会員の方が参加し、福博の街のスケッチを楽しみ交流を深めた。



スタ コラ

弊社スタッフのコラム。ホームページに定期的にアップしています。

お・も・て・な・し

大隈信夫

2020年オリンピック招致での滝川クリステルさんのプレゼンテーション“おもてなし”が

大きな話題になっている。

もともと“おもてなし”とは、お客様に対する日本人の心遣い、心配りを表すもので、日常生活においても、歓迎の意だけではなく、会釈や挨拶を交わす、お年寄りに席を譲る、お礼を言い感謝を表すなど、他人への思い遣りの心を前提としている。

そしてそれは、心からの想いであり、表面上の外交辞令であってはならない。

しかし、「日本人には“本音と建前”がある」と論評する人もある。

“おもてなし”

先月号の「くまさんのコンサル日誌」で書いた「とあるビール工場の見学」の際のやり取り“次からは予約してきてくださいね”を思い出した。



烏瓜 色づく

ぶらさがってる烏瓜は二つ
山頭火

ウリ科の多年草。山野に自生する蔓草。夏に白いレースのような花を咲かせ秋に実をつける。

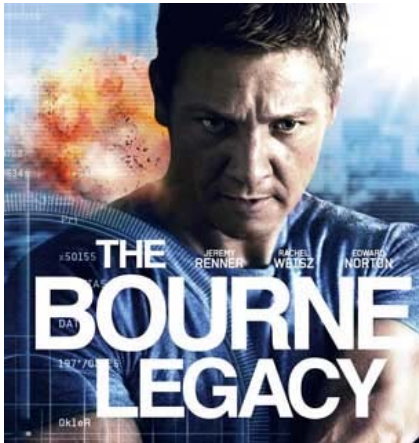


この「通信」の封筒詰めと宛名シール貼りは、「障がい者の仕事をつくる」NPO法人ホーキーズの皆さんにお願いしています。一生懸命、丁寧な作業を心がけていますが、多少のずれやしわ、ゆがみなどはご容赦ください。



映画大好きな山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

ボーン・レガシー



監督：トニー・ギルロイ
出演：ジェレミー・レナー
レイチェル・ワイズ
エドワード・ノートン
アルバート・フィニー
ジョアン・アレン
2012年 米（東宝東和配給）

とにかく本作のカーアクション、特にバイクがからむ逃走劇が、“これでもかこれでもか”というくらい凄いものがある。

自身の記憶を奪われ、愛する者を奪われた最強の暗殺者、ジェイソン・ボーンと CIA との死闘を描いた「ボーン」シリーズは、「ボーン・アルティメイタム」（07

年）によって完結。

本新作では、「ハート・ロッカー」（06年）でアカデミー主演男優賞にノミネートされた、ジェレミー・レナーが新ヒーローに抜擢されている。

ストーリーは、高度な遺伝子操作によって ジェイソン・ボーンを凌ぐ能力を身につけた「最強の暗殺者」アーロン・クロス（ジェレミー・レナー）は、執拗に命を狙う追撃者と対峙しながら、同じ境遇となった医師・マルタ（レイチェル・ワイズ）の情報を頼りに打開策を模索していくが…。



くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

山下清画伯の「ヨーロッパぶらりぶらり」を読んだ。

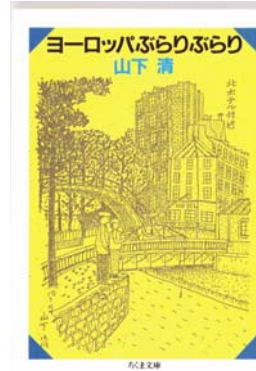
この本は、昭和36年に画伯が初めてヨーロッパを旅した紀行文である。

1996年に第一刷が発行され、2013年には第十一刷が発行された。

この旅は、後見人の式場博士と数人の医家芸術クラブの医師との道中であったようだ。

そのなかに、こんな一文があった。

「ぼくはほんとうのことをいうと、(中略)汽車でいったら、



それも三等でいったら、きっと飛行機よりも安くて、景色もゆっくりながめられたと思う。

しかし、一しょに旅行しているおもしろいさんはみんなそがしい人で、(中略)大急ぎで見物して、(中略)やっぱり大いそぎにつきあうのです。(中略)「大いそぎの人とつきあって、大いそぎで見物するのは、これはちょっと運がわるいというものだろうか」と……

山下画伯の独特の感性は良く知られているところだが、その感性からすると、日常のあわただしさは、ちょっとは理解ができるが、それに付き合わなければならないことは「不運」ということになる。

この本は、楽しく読める内容だったが、日常のあわただしさで、「何かをすり減らしているのかもしれない」と、ちょっとドキッとした。



編集後記

最近になってようやくこの「通信」は、少しは認知されてきたようだ。

何人かの方から、「ためになります」とか「私もこんな『通信』をつくりたい」と言っていた。

この「通信」が何かのお役に立てば、こんな嬉しいことはない。

弊社への質問や要望、身近な情報や感想など、お気軽にお寄せください。

Relationship & Partnership **総研**

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4-33-11-702

☎092-409-4177 FAX092-409-4170

Eメール kuma@b-souken.com

U R L <http://b-souken.com>